馬場ひでゆきの活動日誌

No.56

今回も2月27日の一般質問の続報です。今回は、地域医療と教員問題について質した内容をお伝えします。

地域医療

拙速な統合は避けるべき

教育

最優先は教員不足の解消

強引な地域医療再編

馬場　労災病院の存続を求める署名1万4千筆超が県に提出された。住民の切実な声を受け止め閉院しても建物を活用し総合病院機能を維持すべきでは？

知事　労災病院存続を望む声があることは承知しているが、患者減少が続くなか、限りある医療資源で質の高い医療を地域に残していくことが重要と考えている。労災の受け皿病院へ機能移行を着実に進めていく。

馬場　上越地域では中核病院の再編統合が議論されているが、医師を派遣する大学医局の違いや病院組織文化の違いから統合は容易ではない。拙速に進めず実情に沿った改革を行うべき。

知事　昨年3月の上越地域医療構想調整会議で中核病院は早期の集約・機能強化が必要である旨を合意している。現在開設者に加え、関係大学の医局や地元の市とも議論を重ねている。

馬場　労災病院が閉院した場合、年間約１０００件の整形外科手術の多くを県立中央病院が担うことになる、手術室の増設が必要ではないか？

知事　中央病院では、令和９年度中の手術室増設を目指し準備を進めている。既に労災病院からの整形外科医を受け入れている、昨年10月には手術支援ロボットを導入し手術関係の改善を進めている。

馬場のコメント

県は、労災病院の閉院は令和8年3月と説明していました。中央病院での手術室増設が令和9年度では、手術を要する患者への具体的な対応がなされていないも同然です。地域医療の縮小再編の流れを押しとどめることはできていませんが、様々な課題は残されたまま。引き続き皆さんの立場で問題点を訴えていきます。

教員不足の解消を目指せ

馬場　県内の公立学校では83名の教員が未配置である。教員の多忙化が原因で教員志願者が減少している。解消するために教員の拡充を国に求めるべき。

教育長　教員の拡充等について国に直接要望してきた。今後も強く国に働きかけていく。

馬場　現場では、非常勤講師の採用を県教委に要望するが、県教委からは予算面で難しいと回答されたと聞く。非常勤講師の採用が実現できれば教員免許を持つ大学院生が学業の合間に働けるなどメリットがある。柔軟な取組みをすべきではないか。

教育長　非常勤講師配置の要望に応えきれない現状があることは認識している。今後は現場の声を聞いて対応していきたい。

馬場のコメント

現場では、児童の暴力行為、いじめが多数発生、教員が足りていないのは明らかです。

労災病院の閉院が予定されていますが、様々な課題は残されたまま。

県民投票のための臨時議会開催

注目!!

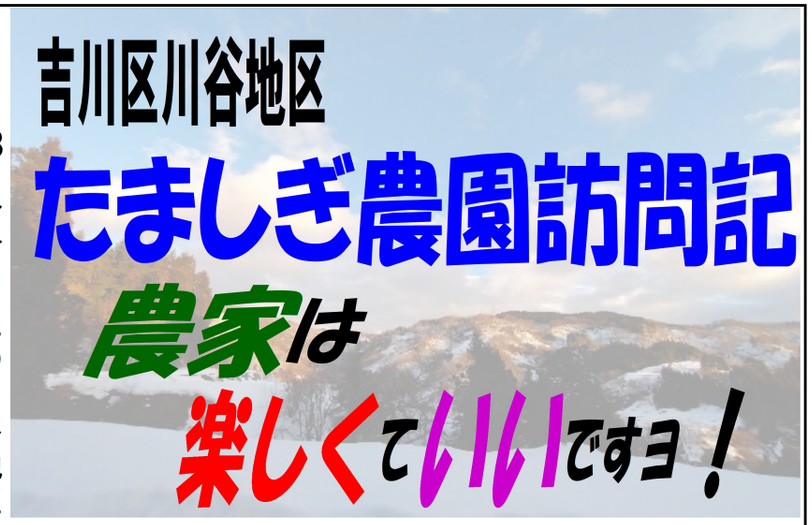
４月16日～18日

馬場も質問に立ちます！

知事の答弁に注目！

県議会の議場に来ての傍聴またはネットでのご視聴をお願いします。県民投票条例実現のために頑張ります。

３月２１日、２月議会が終わりました。今年は、会期の後半に原発関係省庁の参考人招致があり、最後まで気が抜けませんでした。少し休んで、４月の臨時議会の準備をします。



１月28日、吉川区の川谷地区の石谷集落で「たましぎ農園」を経営されている鴫谷（しぎたに）幸彦さん、玉実さん夫婦を訪問しました。幸彦さんは、東日本大震災の翌年（玉実さんはその三年後）に同地区に移住し、先輩農家の指導を受けてその後に独立しました。ご夫婦のお話を紹介します。

Q　ここで農業をして食べていけるんですか？

就農当初、自分たちが生活するためには、この限られた耕作地でお米の売上が最低でも年間３００万円必要と考えました。

１キロのお米を６００円で１００名のお客さんに年間契約で販売することを計画しました。家族親戚、知人の方々に買ってほしいとお願いしました。苦労はしましたけど、今ではその計画を達成できています。

それから、畑で作った野菜を吉川にある「道の駅」の直販所で売ったり、川谷の農産加工所にみそや漬物の原料として納めたりしています。

そして、中山間地直接支払い交付金があります。だから、何とか家族四人での生活はできています。

Q　農協には出荷しなかったのですか？

農協だともっと安い価格でしか買い取ってもらえない、それでは生活できないので、自分たちで販売網を開拓するしかなかったんです。

独立当初は青年就農給付金を年１５０万円もらえたのもありがたかったです。

Q　都会からよくこんな片田舎に来てくれましたね？

そう言われるけれど、自然の美しさに魅かれました。ホントに来てよかった。集落の人がみんな親切なんです。

最初の頃は、集落の母ちゃんたちが野菜の作り方を教えてくれました。でも、私（玉実さん）がうまく栽培できないのがわかっていたらしく、野菜や料理をおすそ分けしてくださるんです。

そのお蔭で家計も助かりました。

Q　通院や買物は不便なのでは？

たしかに、ここでは車がないと暮らしていけません。高齢で運転免許を手放してしまえば、ここで暮らせないこととほぼ同じなんです。

川谷地区では「くらし安心事業」を立ち上げて送迎支援をしています。中山間地直接支払いの棚田加算を財源にして、送迎サービスを受ける人は無料で利用でき、車を運転したサービス提供者は謝金をもらえることにしています。この送迎サービスの利用は年々伸びています。

Q　今後の抱負は？

規模が小さくても、誰もが農業を続けられるようにしたい。

昨年からは休耕地を利用して移住者や地域おこし協力隊が集団で耕作する組織を立ち上げました。

彼らがそこで先輩農家から農業技術を学びながら楽しく独立できたらなあと思います。農家を増やすことをあきらめません。

鴫谷さんご家族。「写真撮りますよ～、ハイ、バター！」「？？？」

私の推し本その24

『川谷もより百笑百年物語』（川谷もより協議会編）

「川谷もより」は、上越市の北東の山間地に位置する、上川谷、下川谷、石谷、名木山の四つの集落をまとめた呼び名です。

同地区も、他の山間地と同様に高齢化と人口流出が進行しています。平成27年7月に「川谷もより協議会」を設立し、1年にわたりみんなで議論を重ねて将来ビジョンを作りました。それを小冊子にしたものが『川谷もより百笑百年物語』です。鴫谷さんに取材した際、一冊いただきました。

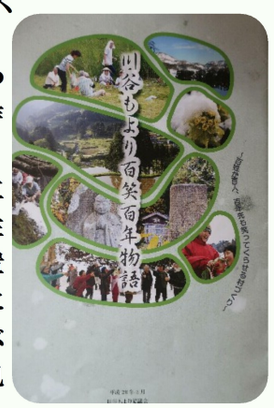
四つの基本理念がいい。

「老若男女が楽しく働き、子どもの声が絶えない地域」

「産業と文化、自然が活かされたにぎやかな地域」

「あくせくせずとも生きがいがあり、心豊かにくらせる地域」

「互いの顔が見え、みんなが安心してくらせる地域」



自分たちの言葉で書かれていてわかりやすい。これは地域で作った手作りの憲法だと思います。

さらに凄いのは、具体的な計画を立てて実践していること。例えば、「移住促進」を基幹事業の一つとして位置付け、移住者がいつ来てもいいように空き家の管理をし、農業技術を学ぶ組織を作り、実践している。ホントに見事です。

発行責任者：馬場ひでゆき事務所
住所　新潟県上越市本町３丁目３番３号
ダイアパレス高田弐番館２階
電話　０２５－５４６－７１１０
ファックス　０２５－５４６－７６６６
メール　kengi-babahideyuki@wind.ocn.ne.

山間地の農業で生計を立てて暮らすにはどうしたらいいのか。その答えを探しに鴫谷さんご夫婦を訪ねました。お話が具体的でわかりやすく、感動の連続でした。